

「科学技術政策特論」講義案内

履修登録の有無にかかわらず、多くの学生、教職員の方の聴講を歓迎いたします



平成26年

6月20日

5 講目  
16:30-18:00



工学研究院  
オープンホール  
[B-201]

第11回

国際宇宙ステーション  
プログラムから学んだこと  
～開発・運用の、現場の視点から～

宇宙航空研究開発機構 有人宇宙ミッション本部  
宇宙環境利用センター きぼう利用プロモーション室長  
坂下 哲也

坂下先生からのメッセージ

国際宇宙ステーションは、世界の5極15カ国が参加する、希有の大規模国際科学技術プログラムです。日本は計画開始当初からこのプログラムに参加してきました。当時日本は、人工衛星を静止軌道に打ち上げられる世界でも数少ない国の一つではありましたが、有人宇宙飛行については全く経験がありませんでした。現在では、国際宇宙ステーションで最大の実験施設「きぼう」や無人補給船「こうのとり」を開発・運用し、今年前半には若田飛行士が国際宇宙ステーションの船長を務めました。この間に経験した、設計思想やプロジェクトの進め方の違い、また日々の交渉など、国際プログラムの姿を現場レベルの視点でご紹介するとともに、来たるべき国際宇宙探査のあり方についても皆さんと一緒に考えてみたいと思います。



© JAXA / NASA



© JAXA / NASA

坂下 哲也 先生

1990年 東北大学大学院工学研究科修士課程終了(機械工学) 宇宙開発事業団入社。国際宇宙ステーションの「きぼう」日本実験棟、生命科学実験施設(セントリフュージ)、宇宙ステーション補給機「こうのとり」の開発を担当した後、広報部を経て現職。目下、「きぼう」での更なる利用成果創出のため、新しいユーザーの開拓など利用促進の活動を行っています。